

WHO ファクトシート

髄膜炎菌性髄膜炎

Meningococcal meningitis

2018 年 1 月

重要な事実

- ・髄膜炎菌性髄膜炎は細菌性の髄膜炎であり、脳、脊髄周辺を覆っている薄い内膜に生じる重篤な感染症である。
- ・髄膜炎菌性髄膜炎は、死亡率も高く(治療しなければ最大 50%)、重度の後遺症を残す頻度も高い(10%以上)。早期の抗生物質治療は命を救い合併症を減らす最も重要な手段である。
- ・髄膜炎菌性髄膜炎は、世界中で見られるが、最も疾病負荷が高いのはサハラ以南の髄膜炎ベルト地帯であり、西のセネガルから東のエチオピアまで広がっている。この地域から依然として毎年約 3 万症例が報告されている。
- ・血清型特異ワクチンは、予防のために使われる(定期予防接種)とともに、突発的流行への対処としても使われる(迅速対応ワクチン接種)。
- ・2010 年以来、髄膜炎ベルト地帯での大規模予防的接種キャンペーンによる髄膜炎菌 A 型結合ワクチンの展開以降、血清型 A 群の割合は劇的に減少した。

本件ファクトシートについては厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)でも全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Meningococcal meningitis ファクトシート原文は [こちら](#)